

### 3 マンホールポンプ整備

平成 29 年度末現在、市内に 9 ヶ所が稼働しているマンホールポンプが、故障等により作動しなくなると、周辺地域の汚水が流れなくなるため、毎年点検を行っており、支障がある部品についてはその都度交換し、対策しています。

#### 具体的な取り組み

定期的に点検を行い、異常箇所の早期発見・修繕を行います。

### 4 不明水調査と改善

管路施設の継手や破損箇所からの地下水の侵入と雨天時に一時的に増大する雨水が侵入するなどの生活排水以外の水量を不明水と言われています。

不明水が多いと管路施設からの溢水が生じ、処理場やポンプ場の排水能力や処理能力が不足するなど、下水道施設の機能に重大な影響を与えるだけでなく、汚水処理費用増加の要因となり、下水道事業経営に支障をきたします。

全国的にも課題となっている不明水と思われる水量は、年間汚水処理量のうち、本市は平成28年度では16.6%であり、全国平均値17.6%であります。

このことから、汚水処理量の増減の高い処理分区から流量調査による現状把握と原因の究明および対応策の検討（不明水調査・対策）を実施していきます。実施した調査・対策により管路の破損や継手部分等から侵入水が判明した場合は、管渠更生等の改築・更新で対応します。

#### 具体的な取り組み

流量調査による現状を把握し、管渠更生等の対策を進めてまいります。

### 第3節 健全経営（継続して健全な経営を図る下水道）

#### 1 適正な下水道使用料の検討

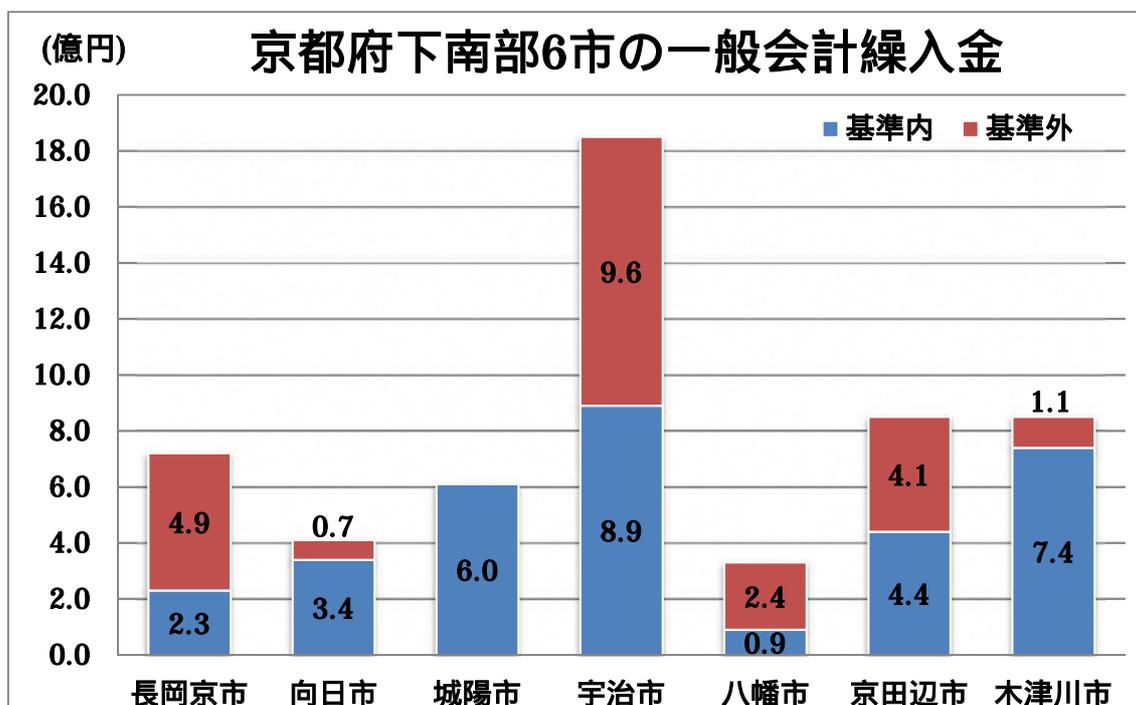
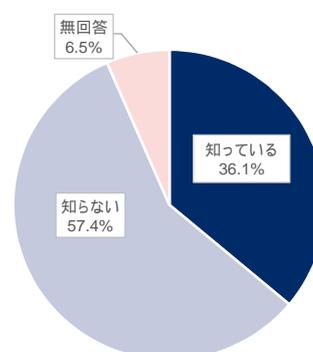
今回のアンケートにおいて、下水道汚水事業で、下水道使用料のほか税金が充てられていることの認知度について、「知らない」との回答が、6割近くとなっています(右表)。

下水道事業には、雨水事業と汚水事業を行っていますが、その経費負担については、原則として雨水事業にかかる経費は公費(一般会計からの繰入金：長岡京市の税金等)で負担し、汚水事業にかかる経費は私費(下水道使用料)で負担することとされています。

また、一般会計からの繰入金については、毎年度、総務省からの通知(「地方公営企業繰入金について」)で基準が示されており、その基準に基づく繰入金(基準内繰入金)と、その基準に基づかない繰入金(基準外繰入金)があります。

「下水道事業の現状と課題」で、京都府下南部6市(向日市・城陽市・宇治市・八幡市・京田辺市・木津川市)との一般会計繰入金の比較は、下表(平成27年度決算)のとおりです。

下水道事業への税金充当の認知

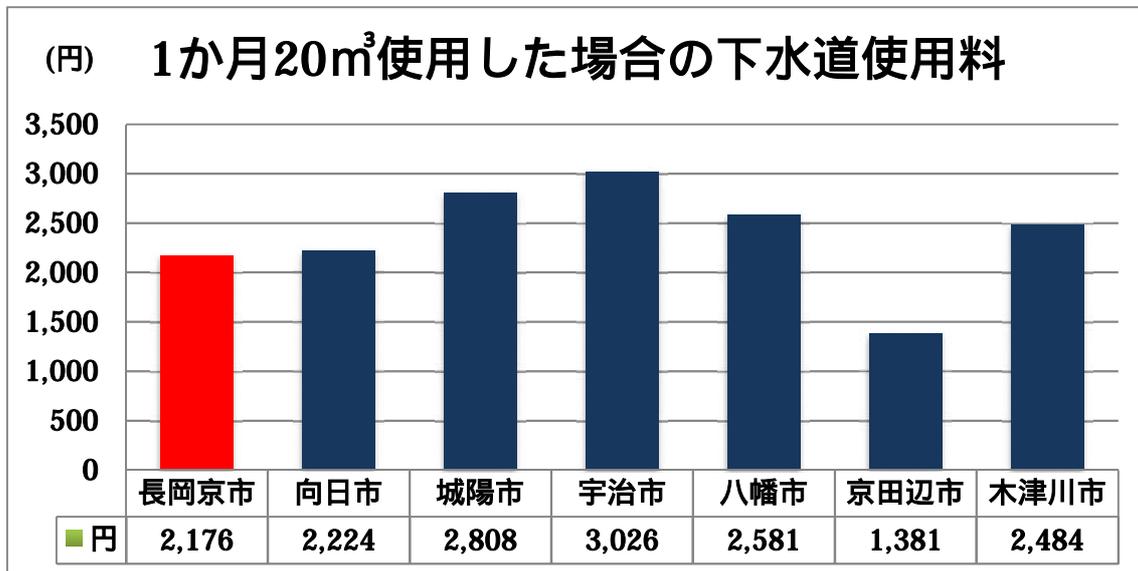


各市の予算規模の違いもあることから、下水道(汚水事業)会計の収入に占める一般会計からの基準外繰入の割合を京都府下南部6市で比較すると、下表(平成27年度決算)のとおり、18.4%と高い水準の繰入れとなっています。

下水道事業(汚水事業のみ)収入合計に対する  
基準外一般会計繰入金比較 (単位：億円,%)

	収入合計 (A)	基準外一般会 計繰入金(B)	割合 (B/A)
<b>長岡京市</b>	<b>26.7</b>	<b>4.9</b>	<b>18.4</b>
向日市	19.6	0.7	3.6
城陽市	31.7	0.0	0.0
宇治市	77.9	9.6	12.3
八幡市	15.3	2.4	15.7
京田辺市	19.8	4.1	20.7
木津川市	20.3	1.1	5.4

一方、下水道使用料は、下表のとおり、京都府下南部と比べると、本市は2,176円と低い水準にあります。



平成29年4月1日現在

### 具体的な取り組み

下水道事業(汚水事業)の経営健全化に向けて、基準外の一般会計繰入金等公費負担のあり方について、段階的に見直します。

上記の基準外の一般会計繰入金等公費負担のあり方や経費回収率を見直すなかで、適正な下水道使用料を検討します。

## 2 組織体制の強化

汚水事業の整備がほぼ終了していることから、維持管理の体制となりますが、雨水事業の整備は今後も拡充することから、それに連動した職員体制を図る必要があります。

また、水道事業と同様、短期間での技術の習得が難しいことから、「技術継承」を考慮した組織・職員体制の充実、研修等による技術力の向上を図る必要があります。

### 具体的な取り組み

汚水及び雨水事業に見合う職員体制を図ります。

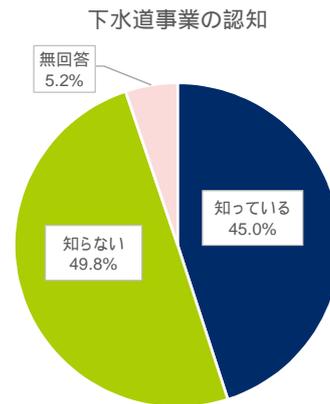
外部研修へ積極的に参加します。

業務マニュアルを作成し、技術の継承及び更新に努めます。

### 3 広報活動の充実

今回のアンケートにおいて、公共下水道事業には、生活排水などを浄化する汚水事業と浸水被害を軽減するための雨水事業があることについて、「知らない」との回答が、半数近くとなっています(右表)。

このようなことから、上下水道部が年3回発行している広報紙「水だより」やホームページなどを通じて情報提供を図っていきます。



#### 具体的な取り組み

わかりやすい情報提供や広報活動の充実を図ります。

### 4 広域化の取り組み

汚水事業では、京都市・向日市・大山崎町と共に、京都府が建設・運営を行っている『京都府洛西浄化センター』で、汚水の終末処理を行っています。

また、雨水事業でも、京都市、向日市、長岡京市の一部を排水区域とした合同事業として京都府で事業を進めている『いろは呑龍トンネル』があり、全面供用開始後は、乙訓ポンプ場・呑龍ポンプ場・寺戸川ポンプ場にて雨水の処理を行っていきます。

流域下水道として両事業とも今後は、維持管理経費の削減など、更なる経費の効率化に取り組む必要があります。

#### 具体的な取り組み

京都府へ維持管理経費の削減や更なる経費の効率化を要請します。

国の広域化への取り組みの推進に伴う京都府の検討・動向に注視し対応していきます。

## 第5章 経営戦略

### 1 経営戦略とは

#### (1) 経営戦略の策定趣旨

下水道事業では、下水道使用料をもって経営を行う独立採算制を基本原則に、都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、公共用水域の水質保全を目的とする汚水事業と、公費(税等)で雨水の排除(浸水の防除)を目的とする雨水事業があり、市民生活向上のための重要な役割を担っています。

本市では、下水道事業の事業計画としては、都市計画の一部に下水道事業の計画を盛り込み、事業の推進を図ってまいりました。

ただ、汚水事業では近年の節水指向の高まりや今後迎える人口減少等に伴う下水道使用料収入の減少のほか、整備した汚水施設の改築更新、また、雨水事業では近年の降雨量の変化による多発する浸水被害の軽減等、市民生活の環境改善や安全安心をさらに図ることが必要となってきました。

このような中、国土交通省の新下水道ビジョンに連動し、下水道事業の経営環境の変化に適切に対応し、そのあり方について絶えず検討を行うことが求められ、総務省においては、全国の下水道事業体に対して、令和2年度までに「経営戦略」の策定が要請されました。

#### (2) 経営戦略の計画期間

令和2年度から令和11年度の10年間

(上下水道ビジョンの計画期間と同様)

#### (3) 経営戦略策定の基本的な考え方

本市の基本的な「経営戦略」の考え方について、以下の内容でまとめました。

下水道事業の現状と課題を明らかにして、今後の将来見通しを立てます。

事業の効率化や経営健全化の取組方針を反映させて、施設・設備の投資見通しである「投資試算」等の支出と財源見通しである「財源試算」の収入を均衡させた収支計画(収支均衡していない場合は、収支ギャップの解消に向けた取り組みの方向性や検討体制及びスケジュールを記載)を策定します。

進捗管理(モニタリング)や見直し(ローリング)等の経営戦略の事後検証、更新等に関する考え方を記載します。

上下水道事業審議会で審議したあと、市民や議会に公開します。

#### (4) 経営戦略策定の流れ

本市は、将来においても健全な経営環境を維持していくため、経営の基本計画となる「経営戦略」を策定し、この計画に基づき事業運営を行います。

今回の下水道ビジョン策定に際して検討した「下水道事業の現状と課題」及び「下水道事業の将来環境と今後の取り組み」の内容を踏まえて策定します。

#### (5) 経営比較分析

経営戦略策定において、求められている「下水道事業の現状と課題」については、上下水道事業審議会で審議した「下水道事業の現状と課題」の内容を基本とし、総務省による経営比較分析表も併せて活用いたします。

総務省の経営比較分析表とは、平成27年度より毎年度、各市町村等が分析結果を公表しているもので、経営や施設等の状況を表す経営指標を用いて、経年比較や類似事業体との比較などを行い、経営状況を分析するものです。

本市の下水道事業は、平成29年4月1日から地方公営企業法による企業会計制度に移行(法適用)し、水道事業と同様の発生主義による経営状況の明確化を図りました。よって、企業会計制度に移行した初年度の平成29年度決算数値と類似団体(処理区域内人口規模3万人以上10万人未満で、その区域内人口密度が75人/ha以上100人/ha未満に、事業開始後年数が30年以上の団体)及び全国平均値を比較します。また、類似団体ではありませんが、京都府下南部の法適用団体(城陽市・八幡市・宇治市・木津川市)と比較した内容は以下のとおりです。

### 「経営の健全性・効率性」

$$\text{経営収支比率 (\%)} = \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

平成29年度	長岡京市	類似団体平均値	全国平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	100.64	103.88	108.80	111.21	100.53	100.47	100.45

#### [ 指標の説明 ]

経営収支比率は、当該年度において、使用料収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが望ましく、100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要です。

$$\text{累積欠損金比率 (\%)} = \frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益 - 受託工事収益}} \times 100$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	0.00	0.00	4.27	332.03	0.00	3.00	0.00

[ 指標の説明 ]

営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した欠損金のこと)の状況を表す指標です。累積欠損金が発生していないことを示す 0%であることが求められ、0%より高い場合は経営の健全性に課題があります。

$$\text{流動比率 (\%)} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	35.91	30.13	66.41	14.82	129.07	47.49	31.86

[ 指標の説明 ]

短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す 100%以上であることが望まれます。

$$\text{企業債残高対事業規模比率 (\%)} = \frac{\text{企業債現在高合計 - 一般会計負担額}}{\text{営業収益 - 受託工事収益 - 雨水処理負担金}} \times 100$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	1,284.8 4	707.12	707.33	1,794.00	435.42	1,479.87	440.21

[ 指標の説明 ]

使用料収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。この指標が過大になると企業債の償還ができなくなる可能性が高まるため、類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているか、対外的に説明できることが求められます。

$$\text{経費回収率（％）} = \frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費（公費負担分を除く）}} \times 100$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	85.05	93.62	101.26	100.00	98.63	87.90	83.43

[ 指標の説明 ]

下水道使用料で回収すべき経費を、どの程度下水道使用料で賄えているかを表した指標であり、下水道使用料の水準等を評価することが可能です。100%以上が望まれ、100%を下回っている場合、下水道使用料で回収すべき経費が下水道使用料以外の収入で賄われていることとなり、適切な下水道使用料収入の確保が求められます。

$$\text{汚水処理原価（円）} = \frac{\text{汚水処理費（公費負担分を除く）}}{\text{年間有収水量}}$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	150.30	136.47	136.39	150.18	129.43	185.68	150.00

[ 指標の説明 ]

有収水量 1 m<sup>3</sup>あたりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標です。明確な数値基準はないと考えられ、経年比較や類似団体との比較等により状況を把握し、分析することが求められています。

$$\text{施設利用率（％）} = \frac{\text{雨天時一日平均処理水量}}{\text{雨天時現在処理能力}} \times 100$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	-	73.60	60.13	-	-	70.14	39.14

本市の数値については、下水道の汚水処理場を所有していないため、数値は表示されません。

[ 指標の説明 ]

施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。明確な数値基準はないと考えられるが、一般的には高い数値であることが望まれます。

$$\text{水洗化率（％）} = \frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域人口}} \times 100$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	99.22	96.40	95.06	92.98	98.81	84.80	93.99

[ 指標の説明 ]

現在処理区域人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標です。公共用水域の水質保全や、使用料収入の増加等の観点から100%となっていることが望まれます。

【経営の分析】

短期間で污水管路を布設したことから、の企業債残高対事業規模比率が、近隣や類似団体より大変高く、今後の償還の推移を注視する必要があります。の経費回収率は、下水道使用料で回収すべき経費を、どの程度下水道使用料で賄えているかを表した指標であり、100%未満であることから近隣の団体の状況を見ながら改善する必要があります。

「老朽化の状況」

$$\text{有形固定資産減価償却率（％）}$$

$$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿価格}} \times 100$$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	4.00	7.78	38.13	22.42	22.57	9.56	2.96

本市の数値については、地方公営企業法の全部適用による企業会計制度を平成29年4月1日から適用したことから、有形固定資産減価償却累計額が「0」でスタートしており、この指標は参考値となります。

[ 指標の説明 ]

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示しています。数値が高いほど、法定耐用年数(管渠は50年)に近づいている資産が多いことを示しており、今後の施設更新の必要性が大きいですが、類似団体との比較等により把握・分析します。

管渠老朽化率 (%)  $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	0.00	0.12	5.37	0.00	0.00	0.54	0.00

[ 指標の説明 ]

法定耐用年数(管渠は50年)を超えた管渠延長の割合を表した指標で、管渠の老朽化度合を示しています。数値が高い場合は、法定耐用年数を経過し管渠を多く保有しており、管渠更新の必要性が高いので、類似団体との比較等により把握・分析します。

管渠改善率 (%)  $\frac{\text{改善(更新・改良・維持)管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$

平成 29年度	長岡京市	類似団体 平均値	全 国 平均値	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
数値	0.05	0.20	0.23	0.00	0.54	0.24	0.00

[ 指標の説明 ]

当該年度に更新した管渠延長の割合を表した指標で、管渠の更新ペースや状況を把握できます。法定耐用年数(管渠は50年)で、すべての管渠を更新するのに計算上2%以上の管渠改善率が必要であり、類似団体との比較等により把握・分析します。

【老朽化の分析】

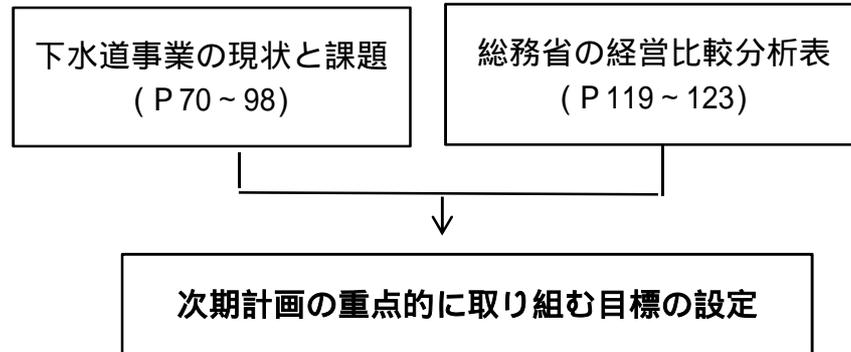
本市の下水道事業施設で法定耐用年数(管渠は50年)の資産は現状にないため、及びの数値は低いですが、今後施設の効率的な維持管理、事業費の平準化を図る必要から、市ストックマネジメント計画に基づき、計画的な老朽化・耐震化を進めていきます。

【全体の分析】

下水道事業施設の改築更新を計画的に進め、継続的で健全な下水道事業経営ができるよう、基準内一般会計繰入金(公費負担分)と基準外一般会計繰入金のあり方を検討しながら、下水道使用料の適正化を図る必要があります。

## 2 現状分析による重点取り組み

「下水道事業の現状と課題」及び今回の総務省の経営比較分析表を踏まえて、「安全安心・環境保全・健全経営」における次期計画中に重点的に取り組む目標を以下のとおり設定しました。



### (1) 「安全安心」に関する重点的に取り組む目標

#### **浸水被害の軽減**

雨水事業の全体計画区域1,143haのうち、10年に一度の雨量(1時間当たりの降雨量61.1mm)に対応した雨水浸水対策事業の整備予定面積576ha(10排水区)について、整備割合の向上を図ります。

指標	平成 29 年 実績 値	令和 2 年 (総合計画目標値)	令和 6 年 中間目標値	令和 11 年 計画目標値
10年に一度の雨量に対応する整備率	67.7 %	69.8 %	75.4 %	80.0 %

### (2) 「環境保全」に関する重点的に取り組む目標

#### **計画的な管路整備**

長岡京市下水道ストックマネジメント計画(汚水事業)に基づき、汚水管路施設の老朽化・耐震化を図る長寿命化対策を計画的に進めます。

(3) 「健全経営」に関する重点的に取り組む目標

**適正な下水道使用料の検討**

適正な施設整備を進めるために、経営の効率化を図りながら、継続的な下水道事業経営の健全性を確保します。

指標	平成 29 年度 類似団体平均値	平成 29 年度 実績値	令和 6 年度 目標値	令和 11 年度 目標値
経費回収率 (注 1)	93.62 %	85.05 %	100%以上	100%以上
基準外一般会計 繰入金 (注 2)	-	約 3 億円	削減	削減

(注1) 経費回収率については、P 121を参照

(注2) 平成29年度決算における一般会計繰入金の状況 (単位:億円)

項目	金額		予算科目等	
	基準内	基準外		
収益的 収 支	雨水処理負担金	1.82	-	雨水処理負担金
	分流式下水道等に要する経費	2.87	-	他会計補助金
	その他	0.42	0.01	"
資本的 収 支	雨水処理費	0.24		"
	その他	0.54	3.05	他会計出資金他
合 計		5.89	3.06	

### 3 経営戦略の具体的試算

#### (1) 投資試算の考え方

国土交通省では、これまでの「下水道長寿命化支援制度」にかわり、「下水道ストックマネジメント支援制度」が導入されたことから、本市でも、令和2年度で終了する「長岡京市下水道長寿命化計画」から「長岡京市下水道ストックマネジメント計画」を策定し雨水・汚水事業共、施設の長寿命化対策を進めようとしています。

今後の長寿命化対策も踏まえた下水道事業計画に伴う投資試算について、「下水道事業の具体的な取り組み(P102～117)」で掲げた今回の上下水道ビジョン10年間(令和2年度から令和11年度)の更新計画を定めました。

#### 「安全安心」の投資試算

雨水事業の全体計画区域1,143haのうち、10年に一度の雨量(1時間当たりの降雨量61.1mm)に対応した雨水浸水対策事業の整備予定面積576ha(10排水区)について、進めていく予定です。

(単位:千円)

取り組み内容	前期(令和2～6)		後期(令和7～11)	
いろは呑龍関連整備事業	委託	45,000	委託	30,000
	工事	795,000	工事	910,000
小畑川関連整備事業	委託	60,000	委託	15,000
	工事	50,000	工事	100,000
犬川雨水幹線・神足ポンプ場改修関連整備事業	委託	140,000	委託	70,000
	工事	915,000	工事	250,000
合計	2,005,000		1,375,000	

「環境保全」の投資試算

長岡京市の公共下水道污水管渠約 224 kmのうち、主要幹線約 22 km については、「長岡京市公共下水道長寿命化計画」により、平成 30 年度に長寿命化計画による工事を完了しました。今後は、枝線延長約 202 kmを国が提唱している「ストックマネジメント計画(污水事業)」を策定し、計画的に管路の調査・診断を実施して、下水道污水施設の効率的な維持管理、事業費の平準化などを図る必要があります。

まずは、布設から 30 年を経過した管路から TV カメラ調査・診断を行い、今後 10 年で約 46 kmの調査・診断を行います。

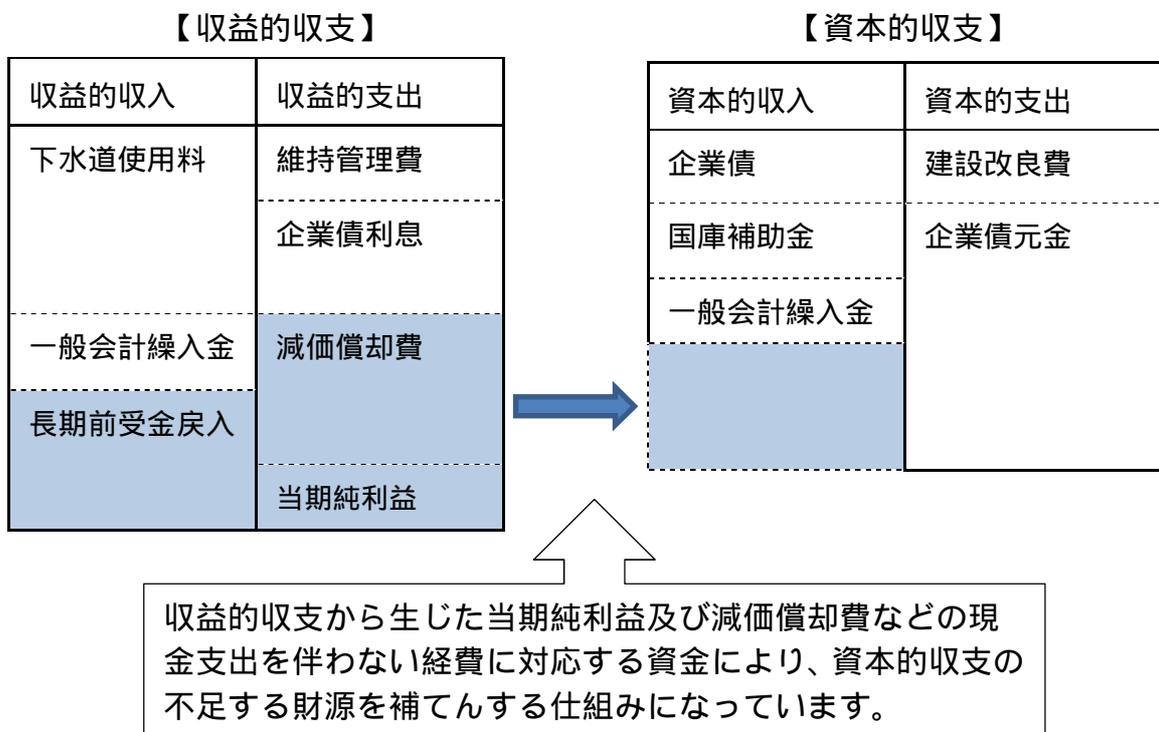
(単位：千円)

取り組み内容	前期(令和 2～6)		後期(令和 7～11)	
ストックマネジメント計画(污水)関連事業 (污水管路施設の老朽化・耐震化を図る長寿命化対策事業)	委託	102,216	委託	102,216
	工事	291,641	工事	291,641
合 計	393,857		393,857	

## (2) 財源試算の考え方

### 下水道事業会計の仕組み

公営企業である下水道事業は、水道事業と同様、当該年度(単年度)の経営活動における収益・費用として処理する損益勘定(収益的収支)と、その効果が長期間にわたって発生する投資的な収入・支出として処理する資本勘定(資本的収支)の2つの取引で成り立っており、その仕組みは以下の図のとおりです。健全経営のためには両取引のバランスに留意しながら事業を実施していかなければなりません。



### 財源試算の考え方

平成29年度決算における主要財源は、収益的収入が下水道使用料、資本的収入が企業債と一般会計繰入金です。水道事業と同様に有収水量の減少のほか、建設投資における元利償還金のピークが過ぎ、緩やかに減額していますが、京都府洛西浄化センターへの汚水処理費は徐々に増加しています。今後は、ストックマネジメント計画による施設更新計画を策定する中で、将来にわたって安定した下水道事業を維持していくためには、適正な原価計算に基づく下水道使用料収入の確保が必要となります。

財源試算では、安定し継続的な事業経営が可能な下水道を目標に、令和2年度から令和11年度の10年間の財源試算を定めました。

## 「健全経営」の財源試算

安定した事業経営を実現するためには、経営の柱となる下水道使用料及び企業債の借り入れ、そして、基準外を含む一般会計繰入金の3つのバランスを確保することが重要です。本計画において、下水道使用料、企業債、一般会計繰入金のバランスを図る経営の評価基準として、(ア)基準外を含む一般会計繰入金の適正化、(イ)適正な下水道使用料の確保するために経費回収率の向上及び(ウ)運転資金の確保の3つの評価基準を設定しました。

基準もしくは目標	内 容
(ア)基準外を含む一般会計繰入金の適正化	基準外の一般会計繰入金の適正化を図ります <b>削減又は解消します</b>
(イ)経費回収率の向上	下水道使用料の適正化を図ります <b>100%以上を目指します</b>
(ウ)運転資金の確保	資金不足にならないよう図ります <b>適切な資金確保を目指します</b>

### 平成29年度京都府南部法適用団体との比較

(基準外一般会計繰入金、経費回収率及び下水道使用料)

項 目	長岡京市	城陽市	八幡市	宇治市	木津川市
基準外一般会計繰入金 (億円)	3.1	0.0	1.5	7.5	3.7
上記の額に対する 汚水事業収入予算 に占める割合 (%)	11.1	0.0	6.0	10.4	18.7
経 費 回 収 率 (%)	85.05	100.00	98.63	87.90	83.43
一般家庭20m <sup>3</sup> で税 抜月額下水道使用 料(円) (注1)	2,015	2,600	2,390	2,802	2,300

各市決算統計資料より

(注1) 平成17年1月21日全国財政課長・市町村担当課長合同会議において、下水道事業における使用料の適正化各団体に「現在の使用料単価では汚水処理原価を回収できない事業にあっては、まずは、使用料単価を150円/m<sup>3</sup>(家庭用使用料3,000円/20m<sup>3</sup>・月額)に引き上げること。なお、汚水処理原価が150円/m<sup>3</sup>を下回る場合は、使用料単価は汚水処理原価を上限とすること。」の適正化を図りたいと示された。(抜粋)

#### 4 経営戦略による収支計画

- (1) 投資試算と財源試算による経営健全化の取り組みについて  
計画期間である令和2年度から令和11年度までの具体的な取り組みでは、経営健全化に向けた内容の主なものは以下のとおりです。

項目	具体的な内容
ストックマネジメント手法による計画の推進	ストックマネジメント手法で施設整備計画の策定し、改築更新の適正化と特定財源の確保
不明水対策の取り組み	流量調査実施による改善
組織・人員の適正化	計画的な下水道事業(汚水及び雨水)に対応した組織や職員体制の適正化及び研修等の活用した技術継承の実施
一般会計繰入金の適正化	一般会計繰入金の基準内(公費負担)や基準外の繰入基準のあり方を検討
広域化への連携及び効率化への取り組み	国及び京都府の広域化及び流域下水道事業の効率化の要請
下水道使用料の見直し	下水道事業の健全な経営を継続できる適正な下水道使用料の検討

- (2) 投資及び財源試算の収支シミュレーションによる重点基準目標の推移「投資試算と財源試算による経営健全化の取り組み」及び「財源試算の重点基準目標」による収支計画は、132ページのとおりです。

#### [ 計画期間の状況 ]

##### (ア) 基準外一般会計繰入金の適正化

現状の基準で算定した基準外一般会計繰入金は、資本費平準化債の借入可能額の減少から、その資金不足を補てんするために現在の約3億円から令和7年度には約5億円近くまで増額となります。ただ、計画期間の後期では元利償還金が減少することから、約3億円の見込となります。

##### (イ) 経費回収率の向上

支払利息が減少することから支出総額も減少の見込だが、有収水量の減少から下水道使用料も同様に減少する。ただ、基準内一般会計繰入金(公費負担分)が支出に見合い補てんされることから、数値としては85%程度で推移する。

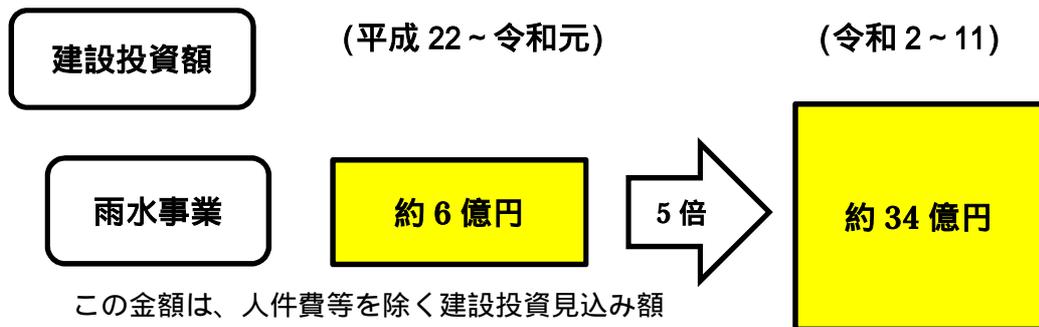
##### (ウ) 運転資金の確保

各年度当初に約2億円の流域下水道維持管理負担金等の定期的な支払いがあることから、最低その資金を各年度末に確保している。

(3) 計画期間における重点基準目標の改善取り組み

雨水事業の推進による建設投資額の増加

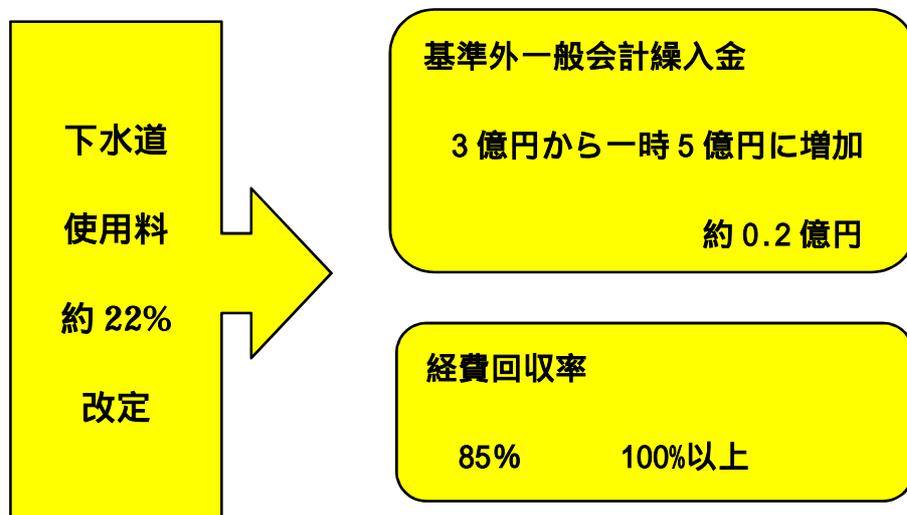
126ページの「安全安心」での雨水事業の推進により、132ページの収支計画の「建設改良費のうち雨水事業分」の建設投資額が大きく増加する。



汚水事業の経費回収率及び基準外一般会計繰入金の適正化

「安全安心」での雨水事業の推進により、大きく建設投資額が増加することを踏まえ、厳しい一般会計への負担を軽減するため、前ページの健全化の取り組みのうち、財源試算の重点基準目標にも設定している「一般会計繰入金の適正化」を図るには、下水道使用料の見直しが必要となります。

その試算として、財源試算の重点基準目標の一つである「基準外一般会計繰入金の削減」のうち、資本的収入の他会計出資金の解消を平成29年度決算数値によると、2.73億円(資本的収入の他会計出資金)を12.39億円(税抜の下水道使用料)で割り戻すと、約22%の下水道使用料の見直しが必要となります。この改善による試算はP133のとおりとなり、「経費回収率」も100%以上となります。



(単位:億円)

区分		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
的 収 入	1. 営業収益 (A)		14.09	14.43	14.06	14.09	14.10	14.13	14.15	14.09	14.01	13.94	13.95	13.99	
		(1) 下水道使用料収入	12.24	12.25	12.28	12.22	12.17	12.12	12.06	12.00	11.94	11.88	11.83	11.77	
		(2) その他	1.85	2.18	1.79	1.86	1.93	2.01	2.09	2.09	2.07	2.06	2.12	2.22	
	2. 営業外収益 (B)		15.09	14.97	15.93	16.25	16.27	16.56	16.62	16.75	16.40	15.98	15.02	13.19	
		(1) 補助金	2.75	3.14	4.05	4.40	4.39	4.55	4.49	4.53	4.16	3.73	2.51	2.00	
		うち他会計補助金(基準内)	2.72	2.97	3.06	2.76	2.47	2.28	2.11	1.96	1.80	1.67	1.53	1.47	
		うち他会計補助金(基準外)	0.02	0.02	0.84	1.49	1.77	2.12	2.22	2.42	2.21	1.91	0.83	0.38	
		(2) 長期前受金戻入	12.35	11.83	11.88	11.85	11.88	12.01	12.14	12.22	12.24	12.25	12.50	11.19	
		収入計 (A) + (B) (C)	29.18	29.40	30.00	30.34	30.37	30.69	30.78	30.84	30.41	29.93	28.97	27.18	
	的 支 出	1. 営業費用 (D)		26.24	25.41	25.47	25.53	25.53	25.69	25.84	25.89	25.85	25.79	25.96	24.70
			(1) 職員給与費	0.91	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95
			(2) 流域負担金	4.88	4.60	4.90	4.95	4.95	4.95	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
			(3) 減価償却費	19.09	18.35	18.26	18.27	18.27	18.43	18.53	18.58	18.54	18.48	18.65	17.39
			(4) その他	1.35	1.51	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36
2. 営業外費用 (E)			3.87	3.46	3.13	2.80	2.53	2.28	2.04	1.82	1.63	1.49	1.36	1.24	
		(1) 支払利息	3.83	3.39	3.08	2.75	2.48	2.23	1.99	1.77	1.58	1.44	1.31	1.19	
		支出計 (D) + (E) (F)	30.10	28.88	28.60	28.33	28.06	27.96	27.88	27.71	27.48	27.27	27.32	25.94	
		経常損益 (C) - (F) (G)	0.92	0.52	1.40	2.01	2.31	2.73	2.90	3.13	2.93	2.65	1.65	1.24	
		当年度純利益 (又は純損失)	0.74	0.51	1.39	2.00	2.30	2.72	2.89	3.12	2.92	2.64	1.64	1.23	

区分		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
本 的 収 入	1. 企業債		9.59	7.74	7.21	8.73	10.20	7.74	4.69	3.15	2.17	5.92	5.28	4.43	
		うち資本費平準化債	5.58	5.04	4.48	3.80	3.15	2.39	1.54	0.83	0.39	0.58	0.57	0.50	
		(上記のうち汚水事業分)	5.28	4.86	4.26	3.58	2.96	2.19	1.34	0.58	-	-	-	-	
	2. 他会計出資金	2.87	2.56	2.32	2.31	2.30	2.29	2.28	2.27	2.26	2.25	2.24	2.23		
	3. 他会計補助金	1.10	0.95	1.15	0.88	0.74	0.68	0.71	0.63	0.63	0.68	0.68	0.72		
	4. 国府補助金	1.17	0.60	1.22	1.92	3.39	2.24	1.14	0.53	0.17	2.57	2.15	1.66		
		収入計 (A)	14.72	11.86	11.89	13.84	16.62	12.95	8.82	6.57	5.23	11.41	10.35	9.03	
	的 支 出	1. 建設改良費		5.68	3.71	4.60	7.32	10.84	7.99	4.72	3.20	2.31	8.30	7.25	6.02
			うち汚水事業分	1.86	1.57	0.80	1.57	2.65	2.67	3.45	1.82	1.83	2.67	2.67	3.45
			うち雨水事業分	3.83	2.14	3.80	5.75	8.19	5.32	1.27	1.37	0.47	5.62	4.57	2.57
2. 企業債償還金		15.23	15.38	15.12	15.08	14.73	14.35	13.70	13.02	12.31	12.24	11.13	10.77		
	支出計 (B)	20.93	19.11	19.74	22.41	25.58	22.35	18.44	16.24	14.63	20.55	18.39	16.80		
	資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (B)-(A)	6.21	7.26	7.84	8.57	8.96	9.40	9.63	9.67	9.40	9.14	8.05	7.77		
	企業債残高	181.79	174.15	166.23	159.89	155.35	148.75	139.73	129.85	119.71	113.39	107.53	101.19		
	うち汚水事業分	157.43	149.28	139.96	130.94	122.55	113.89	105.50	96.20	87.17	78.86	71.71	65.37		
	うち雨水事業分	24.36	24.87	26.27	28.95	32.80	34.85	34.23	33.65	32.54	34.53	35.83	35.82		

【財源試算の重点基準目標】 汚水事業のみ

(単位:億円、%)

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
経費回収率 (%)		77.88	84.48	85.33	85.33	85.33	85.33	85.33	85.33	85.33	85.33	85.33	85.33
基準外一般会計繰入金		3.11	2.85	3.51	4.10	4.31	4.65	4.78	4.88	4.66	4.40	3.31	2.88
資金残高(基準外一般会計繰入金あり)		4.49	1.94	1.94	1.93	1.92	1.91	1.91	1.90	1.89	1.88	1.88	1.87

塗りつぶしてある箇所は、重点基準目標が達成されていない年度です。

(単位:億円)

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
収益的収入	1. 営業収益 (A)	14.09	14.43	16.76	16.78	16.78	16.79	16.81	16.73	16.64	16.56	16.55	16.58	
	(1) 下水道使用料収入	12.24	12.25	14.98	14.91	14.85	14.78	14.71	14.64	14.57	14.50	14.43	14.36	
	(2) その他	1.85	2.18	1.79	1.86	1.93	2.01	2.09	2.09	2.07	2.06	2.12	2.22	
	2. 営業外収益 (B)	15.09	14.97	15.56	15.88	15.90	16.20	16.26	16.38	16.04	15.62	14.66	12.83	
	(1) 補助金	2.75	3.14	3.68	4.03	4.02	4.19	4.12	4.17	3.80	3.38	2.16	1.65	
	うち他会計補助金(基準内)	2.72	2.97	3.52	3.86	3.86	4.02	3.96	4.00	3.63	3.21	1.99	1.48	
	うち他会計補助金(基準外)	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	
	(2) 長期前受金戻入	12.35	11.83	11.88	11.85	11.88	12.01	12.14	12.22	12.24	12.25	12.50	11.19	
	収入計 (A) + (B) (C)	29.18	29.40	32.33	32.66	32.68	32.99	33.07	33.12	32.68	32.18	31.21	29.41	
	支出的支出	1. 営業費用 (D)	26.24	25.41	25.47	25.53	25.53	25.69	25.84	25.89	25.85	25.79	25.96	24.70
		(1) 職員給与費	0.91	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95
		(2) 流域負担金	4.88	4.60	4.90	4.95	4.95	4.95	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		(3) 減価償却費	19.09	18.35	18.26	18.27	18.27	18.43	18.53	18.58	18.54	18.48	18.65	17.39
		(4) その他	1.35	1.51	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36	1.36
2. 営業外費用 (E)		3.87	3.46	3.13	2.80	2.53	2.28	2.04	1.82	1.63	1.49	1.36	1.24	
(1) 支払利息		3.83	3.39	3.08	2.75	2.48	2.23	1.99	1.77	1.58	1.44	1.31	1.19	
支出計 (D) + (E) (F)		30.10	28.88	28.60	28.33	28.06	27.96	27.88	27.71	27.48	27.27	27.32	25.94	
経常損益 (C) - (F) (G)	0.92	0.52	3.73	4.33	4.62	5.03	5.19	5.41	5.20	4.91	3.89	3.47		
当年度純利益(又は純損失)	0.74	0.51	3.72	4.32	4.61	5.02	5.18	5.40	5.19	4.90	3.88	3.47		

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
資本的収入	1. 企業債	9.59	7.74	7.21	8.73	10.20	7.74	4.69	3.15	2.17	5.92	5.28	4.43
	うち資本費平準化債	5.58	5.04	4.48	3.80	3.15	2.39	1.54	0.83	0.39	0.58	0.57	0.50
	(上記のうち汚水事業分)	5.28	4.86	4.26	3.58	2.96	2.19	1.34	0.58	-	-	-	-
	2. 他会計出資金(基準外)	2.87	2.56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3. 他会計補助金	1.10	0.95	1.15	0.88	0.74	0.68	0.71	0.63	0.63	0.68	0.68	0.72
	4. 国府補助金	1.17	0.60	1.22	1.92	3.39	2.24	1.14	0.53	0.17	2.57	2.15	1.66
収入計 (A)	14.72	11.86	9.57	11.53	14.32	10.66	6.53	4.30	2.97	9.17	8.11	6.80	
支出的支出	1. 建設改良費	5.68	3.71	4.60	7.32	10.84	7.99	4.72	3.20	2.31	8.30	7.25	6.02
	うち汚水事業分	1.86	1.57	0.80	1.57	2.65	2.67	3.45	1.82	1.83	2.67	2.67	3.45
	うち雨水事業分	3.83	2.14	3.80	5.75	8.19	5.32	1.27	1.37	0.47	5.62	4.57	2.57
	2. 企業債償還金	15.23	15.38	15.12	15.08	14.73	14.35	13.70	13.02	12.31	12.24	11.13	10.77
	支出計 (B)	20.93	19.11	19.74	22.41	25.58	22.35	18.44	16.24	14.63	20.55	18.39	16.80
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (B)-(A)	6.21	7.26	10.16	10.88	11.26	11.69	11.91	11.93	11.66	11.39	10.29	10.00	

企業債残高	181.79	174.15	166.23	159.89	155.35	148.75	139.73	129.85	119.71	113.39	107.53	101.19
うち汚水事業分	157.43	149.28	139.96	130.94	122.55	113.89	105.50	96.20	87.17	78.86	71.71	65.37
うち雨水事業分	24.36	24.87	26.27	28.95	32.80	34.85	34.23	33.65	32.54	34.53	35.83	35.82

【財源試算の重点基準目標】 汚水事業のみ

(単位:億円、%)

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
経費回収率 (%)		77.88	84.48	107.51	112.77	115.35	118.66	119.72	121.74	119.80	117.02	107.68	104.21
基準外一般会計繰入金		3.11	2.85	0.37	0.32	0.25	0.25	0.29	0.21	0.21	0.25	0.25	0.29
資金残高(基準外一般会計繰入金あり)		4.49	1.94	1.94	1.93	1.92	1.91	1.91	1.90	1.89	1.88	1.88	1.87

## 参考資料（上下水道事業に関するアンケート調査結果）

### 1 調査概要

長岡京市上下水道事業に関するアンケート調査は平成29年9月に実施されました。発送件数1,000件のうち宛先不明分を除いた有効件数は995件であり、582件が回収され、有効回答率は58.5%となっています。

#### 【平成29年度調査】

発送件数	有効回答数	有効回答率
1,000件	582件	58.5%

#### 【参考：平成15年度調査】

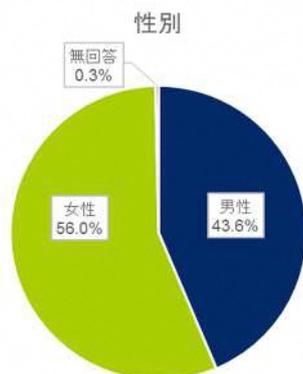
発送件数	有効回答数	有効回答率
1,000件	554件	55.7%

### 2 回答者属性

回答者の性別は、「男性」よりも「女性」が多くなっています。前回の調査よりも、「女性」の割合が上昇しています。

#### 【平成29年度調査】

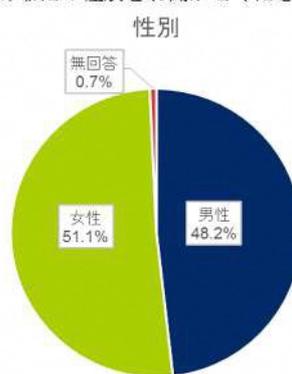
問 1-1. あなたの性別をお聞かせください。(n=582)



選択肢	回答数	割合
男性	254	43.6%
女性	326	56.0%
無回答	2	0.3%
計	582	100.0%

#### 【平成15年度調査】

問 1-1. あなたの性別をお聞かせください。(n=554)



選択肢	回答数	割合
男性	267	48.2%
女性	283	51.1%
無回答	4	0.7%
計	554	100.0%

回答者の年齢は、「70歳代以上」の割合が31.3%と最も高くなっており、次いで、「60歳代」が20.1%で続いています。前回の調査よりも、60歳代以上（「60歳代」「70歳代以上」）の回答者の割合が上昇しています。

【平成29年度調査】

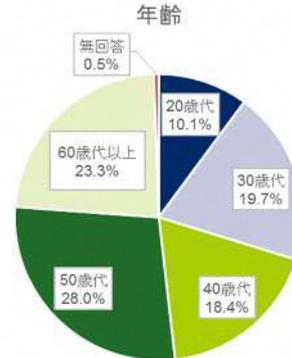
問 1-1. あなたの年齢をお聞かせください。(n=582)



選択肢	回答数	割合
20歳代	37	6.4%
30歳代	69	11.9%
40歳代	102	17.5%
50歳代	74	12.7%
60歳代	117	20.1%
70歳代以上	182	31.3%
無回答	1	0.2%
計	582	100.0%

【平成15年度調査】

問 1-1. あなたの年齢をお聞かせください。(n=554)

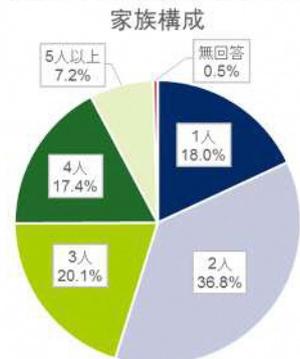


選択肢	回答数	割合
20歳代	56	10.1%
30歳代	109	19.7%
40歳代	102	18.4%
50歳代	155	28.0%
60歳代以上	129	23.3%
無回答	3	0.5%
計	554	100.0%

回答者の家族構成は、「2人」の割合が36.8%と最も高くなっており、次いで、「3人」が20.1%で続いています。前回の調査よりも、「1人」「2人」の割合が上昇しています。

【平成29年度調査】

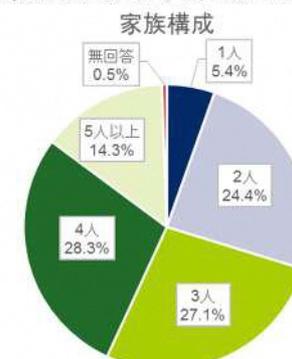
問 1-3. 家族構成はご自身を含めて何人ですか。(n=582)



選択肢	回答数	割合
1人	105	18.0%
2人	214	36.8%
3人	117	20.1%
4人	101	17.4%
5人以上	42	7.2%
無回答	3	0.5%
計	582	100.0%

【平成15年度調査】

問 1-2. 家族構成はご自身を含めて何人ですか。(n=554)



選択肢	回答数	割合
1人	30	5.4%
2人	135	24.4%
3人	150	27.1%
4人	157	28.3%
5人以上	79	14.3%
無回答	3	0.5%
計	554	100.0%

回答者の家族構成は、「親と子」の割合が53.6% と最も高くなっており、次いで、「夫婦のみ」が34.6%で続いています。

【平成 29 年度調査】

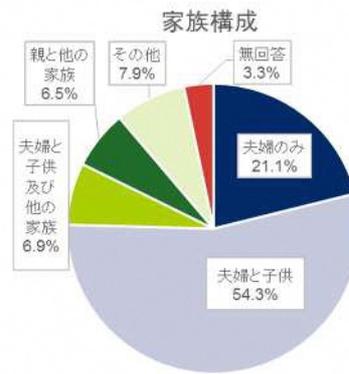
問 1-4. 問 1-3 で 2～5 に回答された方にお聞きます。  
その構成は次のうちどれに該当しますか。(n=474)



選択肢	回答数	割合
夫婦のみ	164	34.6%
親と子	254	53.6%
親と子と孫	25	5.3%
その他	26	5.5%
無回答	5	1.1%
計	474	100.0%

【平成 15 年度調査】

問 1-3. 問 1-2 で 2～5 に回答された方にお聞きます。  
その構成は次のうちどれに該当しますか。(n=521)

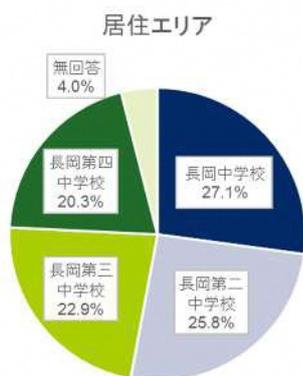


選択肢	回答数	割合
夫婦のみ	110	21.1%
夫婦と子供	283	54.3%
夫婦と子供及び他の家族	36	6.9%
親と他の家族	34	6.5%
その他	41	7.9%
無回答	17	3.3%
計	521	100.0%

回答者の居住地は、「長岡中学校」の割合が27.1% と最も高くなっています。前回の調査よりも、「長岡中学校」と「長岡第二中学校」「長岡第四中学校」の割合が高くなっています。

【平成 29 年度調査】

問 1-5. お住まいの中学校区はどちらですか。(n=582)



選択肢	回答数	割合
長岡中学校	158	27.1%
長岡第二中学校	150	25.8%
長岡第三中学校	133	22.9%
長岡第四中学校	118	20.3%
無回答	23	4.0%
計	582	100.0%

【平成 15 年度調査】

問 1-4. お住まいの中学校区はどちらですか。(n=554)

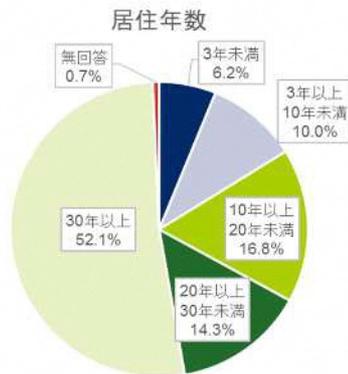


選択肢	回答数	割合
長岡中学校	128	23.1%
長岡第二中学校	118	21.3%
長岡第三中学校	165	29.8%
長岡第四中学校	93	16.8%
無回答	50	9.0%
計	554	100.0%

回答者の居住年数は、「30年以上」の割合が52.1%と最も高くなっています。前回の調査よりも、「30年以上」の割合が上昇しています。

【平成 29 年度調査】

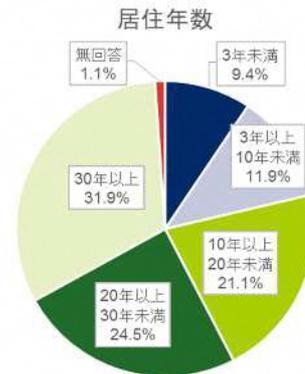
問 15.長岡京市にお住まいになって何年になりますか。(n=582)



選択肢	回答数	割合
3年未満	36	6.2%
3年以上10年未満	58	10.0%
10年以上20年未満	98	16.8%
20年以上30年未満	83	14.3%
30年以上	303	52.1%
無回答	4	0.7%
計	582	100.0%

【平成 15 年度調査】

問 1-5.長岡京市にお住まいになって何年になりますか。(n=554)



選択肢	回答数	割合
3年未満	52	9.4%
3年以上10年未満	66	11.9%
10年以上20年未満	117	21.1%
20年以上30年未満	136	24.5%
30年以上	177	31.9%
無回答	6	1.1%
計	554	100.0%

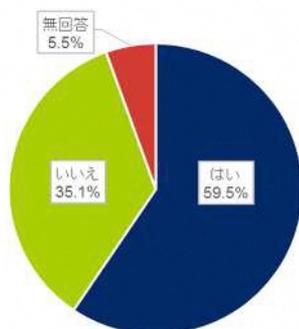
3 水道水や飲み水について

「はい」の割合が59.5%と、「いいえ」よりも高くなっています。前回の調査よりも、「はい」の割合が大きく低下しています。

【平成 29 年度調査】

問 2-1.現在の水道水は、長岡京市の水道（地下水）と京都府からの水道（河川水）のブレンド（約50%ずつ）ですが、ご存知ですか。(n=582)

水道水のブレンドについての認知

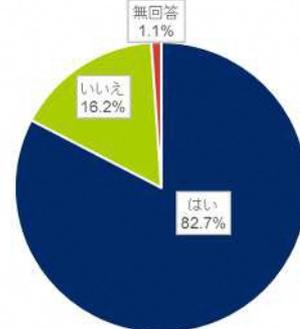


選択肢	回答数	割合
はい	346	59.5%
いいえ	204	35.1%
無回答	32	5.5%
計	582	100.0%

【平成 15 年度調査】

問 2-3.本市の水道水には平成12年10月から京都府営水道（河川水約30%）がまざっていますが、ご存知ですか。(n=554)

水道水のブレンドについての認知



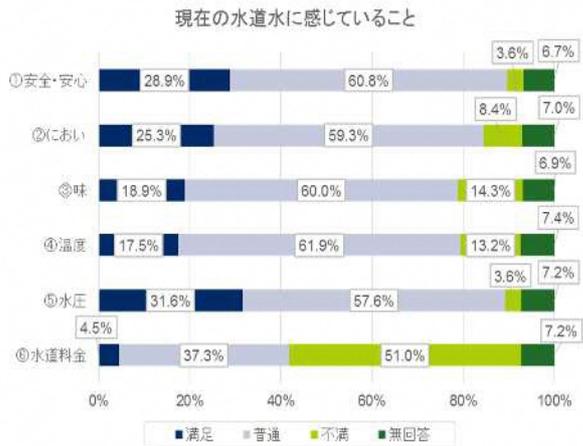
選択肢	回答数	割合
はい	458	82.7%
いいえ	90	16.2%
無回答	6	1.1%
計	554	100.0%

(安全・安心を除く)全ての項目で前回の調査よりも、「満足」の割合が上昇しています。

「水道料金」への「不満」の割合が、51.0%と全ての項目の中で最も高くなっていますが、前回の調査よりも低下しています。

### 【平成 29 年度調査】

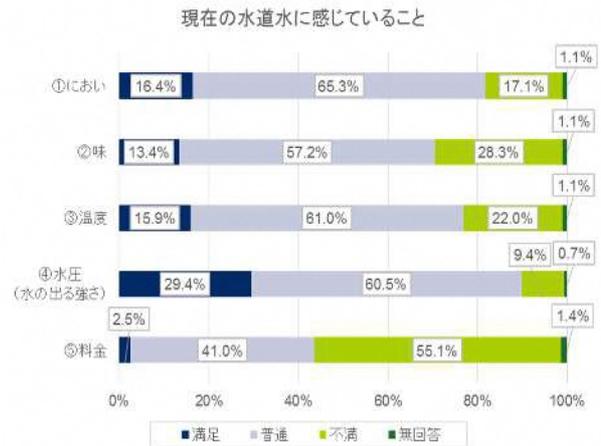
問 2-2.現在の水道水についてどのように感じておられますか。(n=582)



「安全・安心」については、平成 15 年度調査には項目が含まれていない。

### 【平成 15 年度調査】

問 3-1.現在の水道水についてどのように感じておられますか。(n=554)



選択肢						
満足	168	147	110	102	184	26
普通	354	345	349	360	335	217
不満	21	49	83	77	21	297
無回答	39	41	40	43	42	42
計	582	582	582	582	582	582

選択肢						
満足	28.9%	25.3%	18.9%	17.5%	31.6%	4.5%
普通	60.8%	59.3%	60.0%	61.9%	57.6%	37.3%
不満	3.6%	8.4%	14.3%	13.2%	3.6%	51.0%
無回答	6.7%	7.0%	6.9%	7.4%	7.2%	7.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

選択肢						
満足	91	74	88	163	14	
普通	362	317	338	335	227	
不満	95	157	122	52	305	
無回答	6	6	6	4	8	
計	554	554	554	554	554	

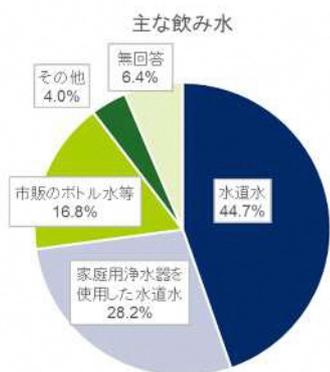
選択肢						
満足	16.4%	13.4%	15.9%	29.4%	2.5%	
普通	65.3%	57.2%	61.0%	60.5%	41.0%	
不満	17.1%	28.3%	22.0%	9.4%	55.1%	
無回答	1.1%	1.1%	1.1%	0.7%	1.4%	
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

「水道水」の割合が 44.7% と最も高く、次いで、「家庭用浄水器を使用した水道水」が 28.2%で続いています。

前回の調査よりも、「水道水」の割合が低下しています。

### 【平成 29 年度調査】

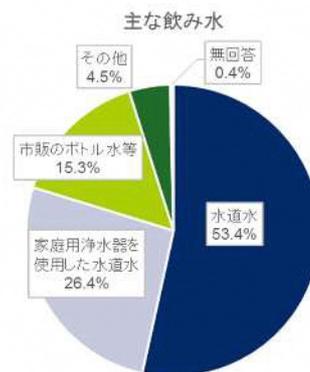
問 2-3. 普段、主に「飲み水」にされているものは次のうちどれですか。（n=582）



選択肢	回答数	割合
水道水	260	44.7%
家庭用浄水器を使用した水道水	164	28.2%
市販のボトル水等	98	16.8%
その他	23	4.0%
無回答	37	6.4%
計	582	100.0%

### 【平成 15 年度調査】

問 3-2. 普段、主に「飲み水」にされているものは次のうちどれですか。（n=554）



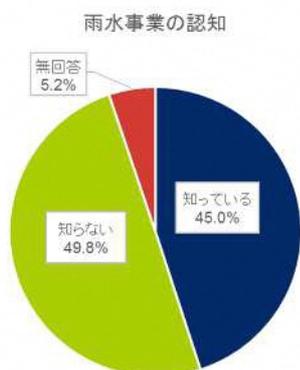
選択肢	回答数	割合
水道水	296	53.4%
家庭用浄水器を使用した水道水	146	26.4%
市販のボトル水等	85	15.3%
その他	25	4.5%
無回答	2	0.4%
計	554	100.0%

## 4 下水道について

「知らない」の割合が 49.8%と、「知っている」よりも高くなっています。

### 【平成 29 年度調査】

問 3-1. 公共下水道事業には、生活排水などを浄化する汚水事業と浸水被害を軽減するための雨水事業がありますが、ご存知ですか。（n=582）



選択肢	回答数	割合
知っている	262	45.0%
知らない	290	49.8%
無回答	30	5.2%
計	582	100.0%

### 【平成 15 年度調査】

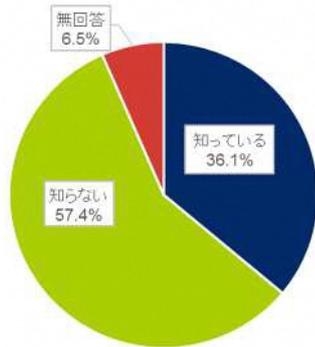
設問なし

「知らない」の割合が 57.4% と、「知っている」よりも高くなっています。

【平成 29 年度調査】

問 3-2.水道事業は料金収入で運営されているのに対して、公共下水道事業の汚水事業は皆さんからの下水道使用料収入のほか、税金が充てられていることをご存知ですか。（n=582）

下水道事業の汚水事業の理解



選択肢	回答数	割合
知っている	210	36.1%
知らない	334	57.4%
無回答	38	6.5%
計	582	100.0%

【平成 15 年度調査】

設問なし

～ において、「満足」の割合が「不満」の割合を上回っています。

「下水道使用料」における「不満」の割合が 36.4%と、全ての項目の中で最も高くなっています。

【平成 29 年度調査】

問 3-3.現在の下水道についてどのように感じておられますか。（n=582）

現在の下水道に感じていること



選択肢				
満足	123	123	111	88
普通	369	387	396	386
不満	49	33	31	64
無回答	41	39	44	44
計	582	582	582	582

選択肢				
満足	21.1%	21.1%	19.1%	15.1%
普通	63.4%	66.5%	68.0%	66.3%
不満	8.4%	5.7%	5.3%	11.0%
無回答	7.0%	6.7%	7.6%	7.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【平成 15 年度調査】

設問なし

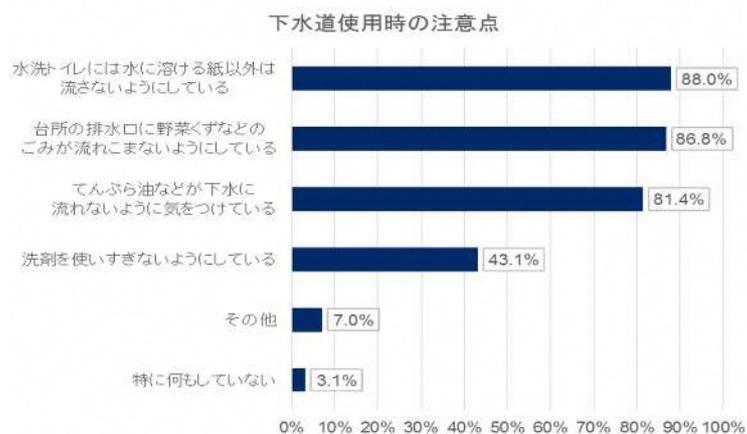
「水洗トイレには水に溶ける紙以外は流さないようにしている」の割合が88.0%と最も高くなっており、次いで、「台所の排水口に野菜くずなどのごみが流れこまないようにしている」、「てんぷら油などが下水に流れないように気をつけている」が続いています。

【平成 29 年度調査】

【平成 15 年度調査】

問 3-4.あなたは、下水道を使用するに当たって、どのようなことに気をつけていますか。（n=582）

設問なし



選択肢	回答数	割合
水洗トイレには水に溶ける紙以外は流さないようにしている	512	88.0%
台所の排水口に野菜くずなどのごみが流れこまないようにしている	505	86.8%
てんぷら油などが下水に流れないように気をつけている	474	81.4%
洗剤を使いすぎないようにしている	251	43.1%
その他	41	7.0%
特に何もしていない	18	3.1%
計	1,801	-

複数回答可のため割合は回答数（582件）に占める割合を表示しています。

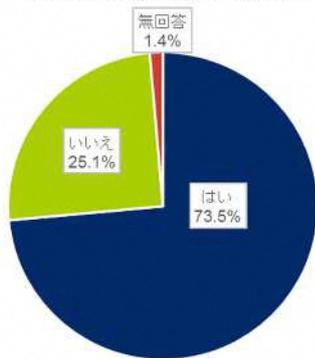
## 5 上下水道料金について

「はい」の割合が73.5%と、「いいえ」よりも高くなっています。  
 前回調査より、「はい」の割合が上昇しています。

### 【平成 29 年度調査】

問 4-1. 上下水道料金は、使用しなくてもかかる料金と使用した水量にかかる料金の合計になっていますが、ご存知ですか。  
 (n=582)

上下水道料金の内訳への理解

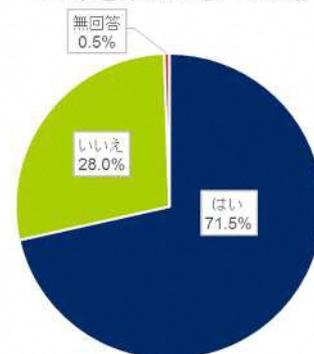


選択肢	回答数	割合
はい	428	73.5%
いいえ	146	25.1%
無回答	8	1.4%
計	582	100.0%

### 【平成 15 年度調査】

問 4-1. 水道料金は、使用しなくてもかかる料金(準備料金)と使用した水量にかかる料金(水量料金)の合計になっていますがご存知ですか。(n=554)

上下水道料金の内訳への理解



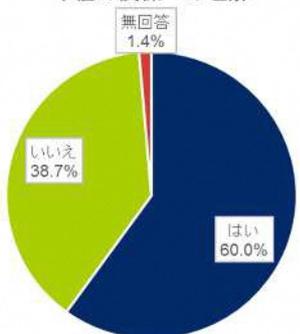
選択肢	回答数	割合
はい	396	71.5%
いいえ	155	28.0%
無回答	3	0.5%
計	554	100.0%

「はい」の割合が60.0%と、「いいえ」よりも高い。  
 前回調査より、「はい」の割合が上昇している。

### 【平成 29 年度調査】

問 4-2. 上下水道料金は使用する水量により単価が異なりますが、使用量が多ければ単価は高くなることをご存知ですか。  
 (n=582)

上下水道料金の使用料と単価の関係への理解

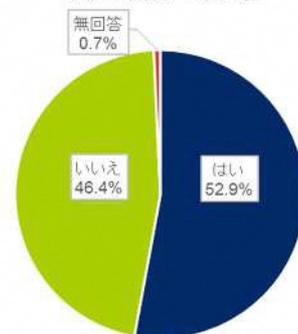


選択肢	回答数	割合
はい	349	60.0%
いいえ	225	38.7%
無回答	8	1.4%
計	582	100.0%

### 【平成 15 年度調査】

問 4-2. 水道料金は使用する水量により単価が異なりますが、使用量が多ければ単価は高くなることをご存知ですか。  
 (n=554)

上下水道料金の使用料と単価の関係への理解



選択肢	回答数	割合
はい	293	52.9%
いいえ	257	46.4%
無回答	4	0.7%
計	554	100.0%

## 6 節水機器について

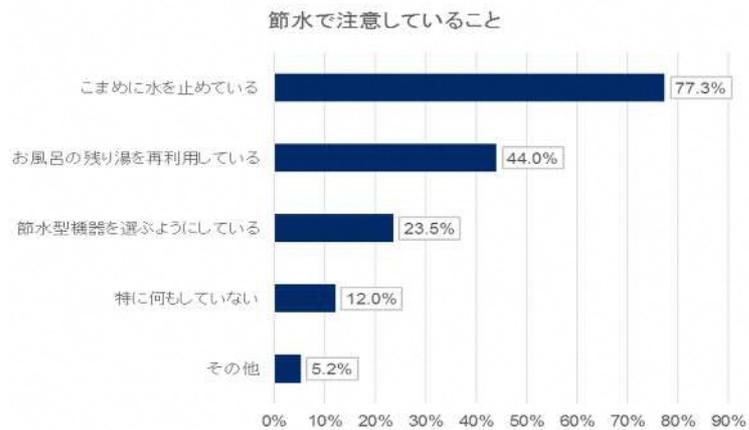
「こまめに水を止めている」の割合が 77.3%と最も高くなっており、次いで、「お風呂の残り湯を再利用している」が 44.0%で続いています。

### 【平成 29 年度調査】

問 5-1. あなたは、節水についてどのようなことに気がつかっていますか。 (n=582)

### 【平成 15 年度調査】

設問なし



選択肢	回答数	割合
こまめに水を止めている	450	77.3%
お風呂の残り湯を再利用している	256	44.0%
節水型機器を選ぶようにしている	137	23.5%
特に何もしていない	70	12.0%
その他	30	5.2%
計	943	-

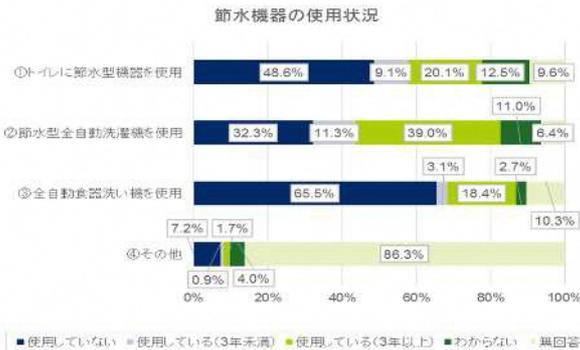
複数回答可のため割合は回答数(582件)に占める割合を表示しています。

「節水型全自動洗濯機を使用」の「使用している（3年未満）」「使用している（3年以上）」の割合が他の項目よりも高くなっています。

前回調査より、～の「使用している（3年未満）」「使用している（3年以上）」の合計の割合が上昇しています。

### 【平成 29 年度調査】

問 5-2. 次の節水機器の使用等は、お宅ではいつ頃からですか。（n=582）



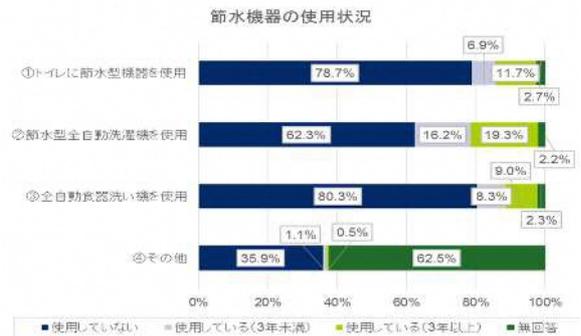
選択肢				
使用していない	283	188	381	42
使用している(3年未満)	53	66	18	5
使用している(3年以上)	117	227	107	10
わからない	73	64	16	23
無回答	56	37	60	502
計	582	582	582	582

選択肢				
使用していない	48.6%	32.3%	65.5%	7.2%
使用している(3年未満)	9.1%	11.3%	3.1%	0.9%
使用している(3年以上)	20.1%	39.0%	18.4%	1.7%
わからない	12.5%	11.0%	2.7%	4.0%
無回答	9.6%	6.4%	10.3%	86.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### 【平成 15 年度調査】

問 5-1. 次の節水機器の使用等は、お宅ではいつ頃からですか。（n=554）



選択肢				
使用していない	436	345	445	199
使用している(3年未満)	38	90	46	6
使用している(3年以上)	65	107	50	3
無回答	15	12	13	346
計	554	554	554	554

選択肢				
使用していない	78.7%	62.3%	80.3%	35.9%
使用している(3年未満)	6.9%	16.2%	8.3%	1.1%
使用している(3年以上)	11.7%	19.3%	9.0%	0.5%
わからない	2.7%	2.2%	2.3%	62.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

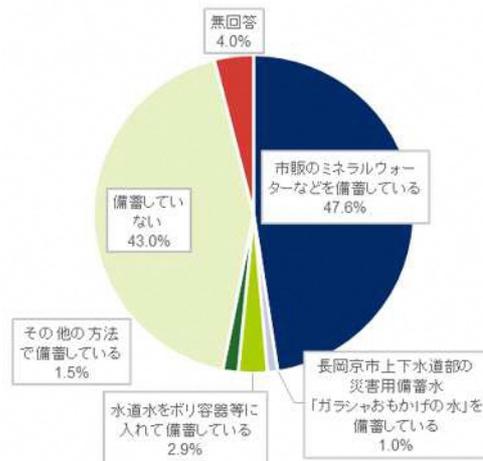
## 7 災害時について

「市販のミネラルウォーターなどを備蓄している」の割合が 47.6%と最も高く、次いで、「備蓄していない」が 43.0%で続いています。

### 【平成 29 年度調査】

問 6-1. あなたはご家庭では、地震等の災害に備えて飲料水の備蓄をしていますか。（n=582）

災害時の飲料水の備蓄状況



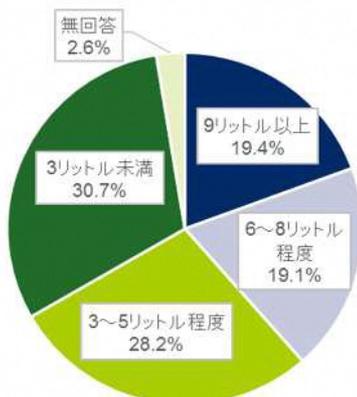
選択肢	回答数	割合
市販のミネラルウォーターなどを備蓄している	277	47.6%
長岡京市上下水道部の災害用備蓄水「ガラシャおもかげの水」を備蓄している	6	1.0%
水道水をポリ容器等に入れて備蓄している	17	2.9%
その他の方法で備蓄している	9	1.5%
備蓄していない	250	43.0%
無回答	23	4.0%
計	582	100.0%

「3 リットル未満」の割合が 30.7%と最も高く、次いで、「3～5 リットル程度」が 28.2%で続いています。

### 【平成 29 年度調査】

問 6-2. 問 6-1 において、1～4 に回答された方について、ご家族 1 人あたりの飲料水の備蓄量についてお聞きします。（n=309）

災害時の飲料水の備蓄量



選択肢	回答数	割合
9リットル以上	60	19.4%
6～8リットル程度	59	19.1%
3～5リットル程度	87	28.2%
3リットル未満	95	30.7%
無回答	8	2.6%
計	309	100.0%

### 【平成 15 年度調査】

設問なし

### 【平成 15 年度調査】

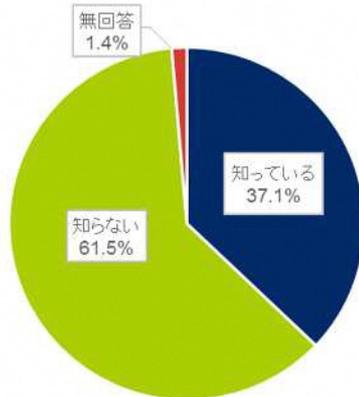
設問なし

「知らない」の割合が61.5%と、「知っている」よりも高くなっています。

【平成 29 年度調査】

問 6-3. 災害時に避難所となる小中学校などに、災害時に使用できるようトイレ（災害用マンホールトイレ）を整備しています。

小中学校等の避難所に災害用マンホールトイレがあることをご存知ですか。（n=582）の認知



選択肢	回答数	割合
知っている	216	37.1%
知らない	358	61.5%
無回答	8	1.4%
計	582	100.0%

【平成 15 年度調査】

設問なし

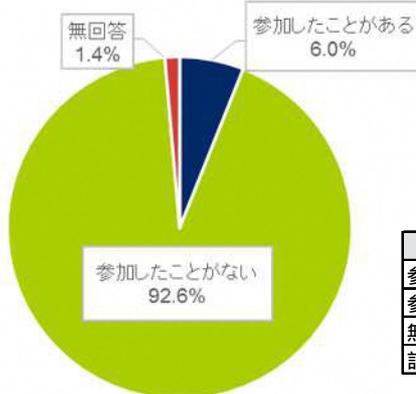
「参加したことがない」の割合が92.6%と最も高い。

【平成 29 年度調査】

問 6-3. 災害時に避難所となる小中学校などに、災害時に使用できるようトイレ（災害用マンホールトイレ）を整備しています。

災害用マンホールトイレの組み立て訓練に参加されたことはありますか。（n=582）

マンホールトイレの組み立て訓練への参加状況



選択肢	回答数	割合
参加したことがある	35	6.0%
参加したことがない	539	92.6%
無回答	8	1.4%
計	582	100.0%

【平成 15 年度調査】

設問なし

## 8 お客様サービスについて

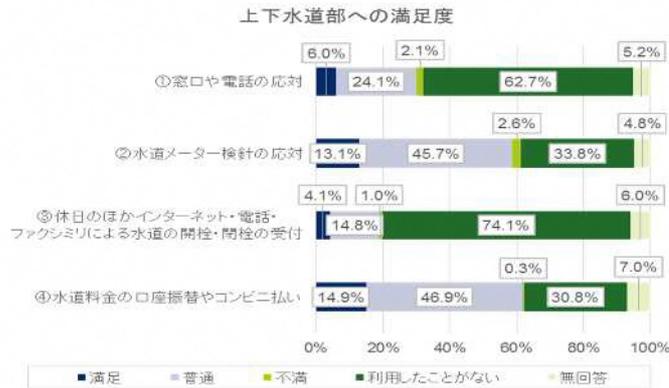
全ての項目で「不満」よりも「満足」の割合が高くなっています。  
 や において、「利用したことがない」との回答が過半数を占めています。

### 【平成 29 年度調査】

### 【平成 15 年度調査】

問 7-1. 上下水道部のお客さま対応やサービスに対するあなたの満足度をお聞きます。(n=582)

設問なし



選択肢				
満足	35	76	24	87
普通	140	266	86	273
不満	12	15	6	2
利用したことがない	365	197	431	179
無回答	30	28	35	41
計	582	582	582	582

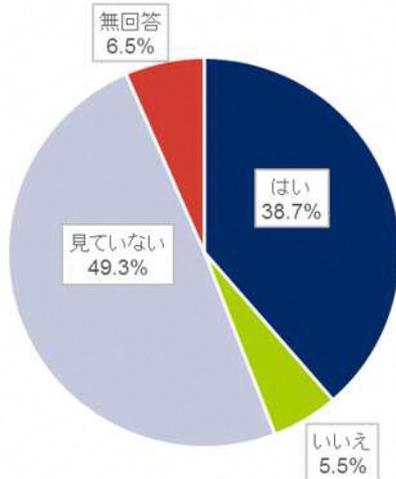
選択肢				
満足	6.0%	13.1%	4.1%	14.9%
普通	24.1%	45.7%	14.8%	46.9%
不満	2.1%	2.6%	1.0%	0.3%
利用したことがない	62.7%	33.8%	74.1%	30.8%
無回答	5.2%	4.8%	6.0%	7.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「見ていない」の割合が49.3%と最も高く、次いで「はい」が38.7%が続いています。

### 【平成 29 年度調査】

問 7-2. 上下水道部が行っている広報活動として「水だより」や「ホームページ」について、わかりやすいですか。(n=582)

上下水道部の広報活動への評価



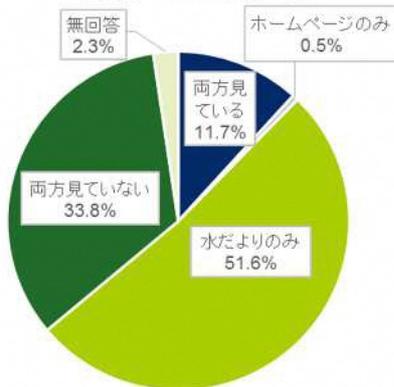
選択肢	回答数	割合
はい	225	38.7%
いいえ	32	5.5%
見ていない	287	49.3%
無回答	38	6.5%
計	582	100.0%

### 【平成 15 年度調査】

問 7-1. 水道局では広報誌「水だより」と「ホームページ」にて情報をお知らせしていますがご覧になっていますか。(n=554)

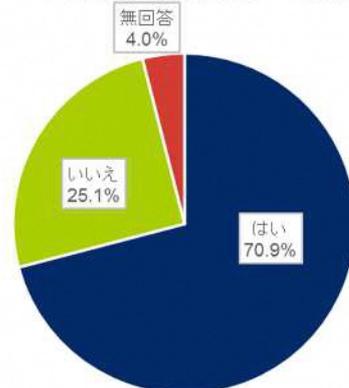
問 7-2. それらの内容はわかりやすいですか。(n=354)

上下水道部の広報活動の認知



選択肢	回答数	割合
両方見ている	65	11.7%
ホームページのみ	3	0.5%
水だよりのみ	286	51.6%
両方見ていない	187	33.8%
無回答	13	2.3%
計	554	100.0%

上下水道部の広報活動への評価

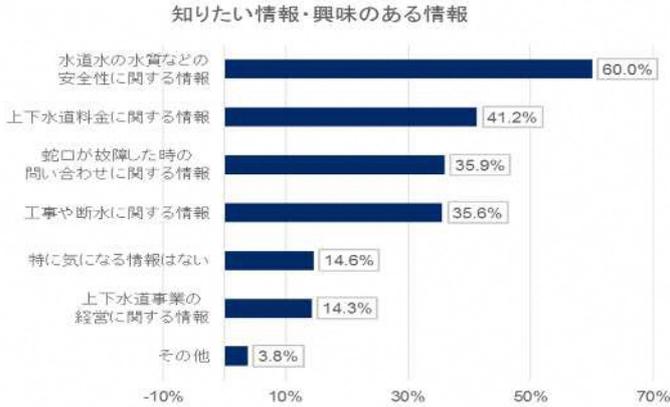


選択肢	回答数	割合
はい	251	70.9%
いいえ	89	25.1%
無回答	14	4.0%
計	354	100.0%

「水道水の水質などの安全性に関する情報」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「上下水道料金に関する情報」が 41.2%で続いています。

【平成 29 年度調査】

問 7-3. あなたは、水道や下水道について知りたい情報や興味のある情報は、どのようなものですか。(n=582)

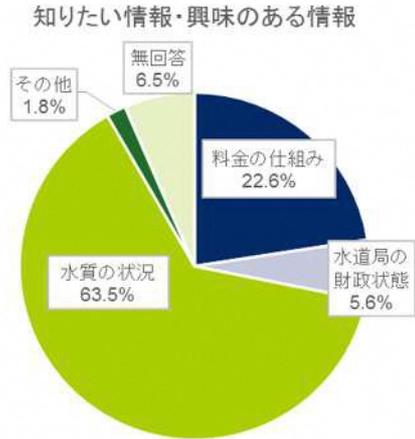


複数回答可のため割合は回答数(582件)に占める割合を表示しています。

選択肢	回答数	割合
水道水の水質などの安全性に関する情報	349	60.0%
上下水道料金に関する情報	240	41.2%
蛇口が故障した時の問い合わせに関する情報	209	35.9%
工事や断水に関する情報	207	35.6%
特に気になる情報は無い	85	14.6%
上下水道事業の経営に関する情報	83	14.3%
その他	22	3.8%
計	1,195	-

【平成 15 年度調査】

問 7-4. 今後水道局に関する情報について、次のうちどのようなことを知りたいですか。(n=554)



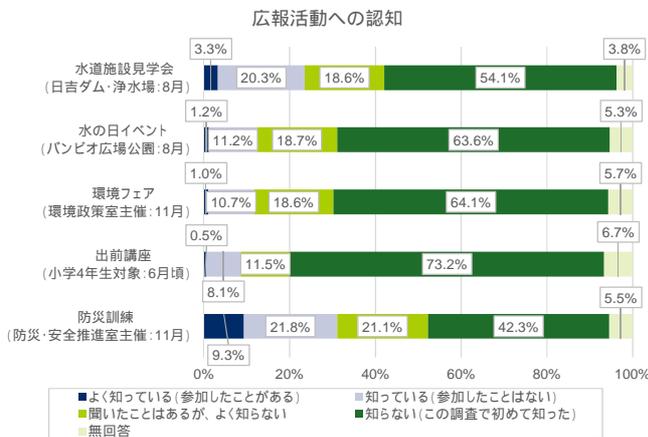
選択肢	回答数	割合
料金の仕組み	125	22.6%
水道局の財政状態	31	5.6%
水質の状況	352	63.5%
その他	10	1.8%
無回答	36	6.5%
計	554	100.0%

全ての項目で、「知らない(この調査で初めて知った)」の割合が最も高くなっています。全ての項目の中で、「防災訓練」の認知度が最も高く、次いで「水道施設見学会」が続いています。

「よく知っている(参加したことがある)」「知っている(参加したことはない)」「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合の合計を認知度とした

【平成 29 年度調査】

問 7-4. 上下水道部が行っている広報活動について、どの程度ご存知ですか。(n=582)



【平成 15 年度調査】

設問なし

選択肢	平成 29 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度
よく知っている(参加したことがある)	19	7	6	3	54
知っている(参加したことはない)	118	65	62	47	127
聞いたことはあるが、よく知らない	108	109	108	67	123
知らない(この調査で初めて知った)	315	370	373	426	246
無回答	22	31	33	39	32
計	582	582	582	582	582

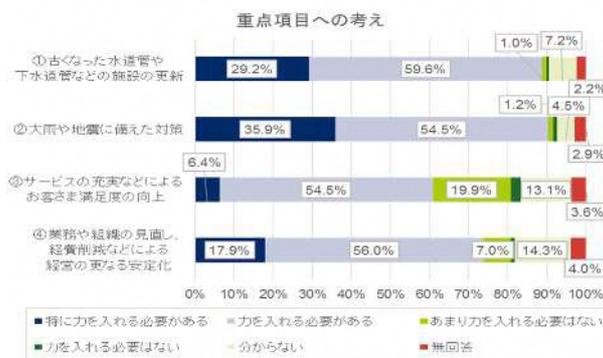
選択肢	平成 29 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度
よく知っている(参加したことがある)	3.3%	1.2%	1.0%	0.5%	9.3%
知っている(参加したことはない)	20.3%	11.2%	10.7%	8.1%	21.8%
聞いたことはあるが、よく知らない	18.6%	18.7%	18.6%	11.5%	21.1%
知らない(この調査で初めて知った)	54.1%	63.6%	64.1%	73.2%	42.3%
無回答	3.8%	5.3%	5.7%	6.7%	5.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## 9 上下水道事業全般について

「古くなった水道管や下水道管などの施設の更新」大雨や地震に備えた対策」など、施設の更新・強化について力を入れる必要があるとの回答（「特に力を入れる必要がある」「力を入れる必要がある」）の割合が高くなっています。

### 【平成 29 年度調査】

問 8-2. 上下水道部が重点的に進めている以下の項目について、あなたのお考えをお答えください。（n=582）



### 【平成 15 年度調査】

設問なし

選択肢	平成 29 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度
特に力を入れる必要がある	170	209	37	104
力を入れる必要がある	347	317	317	326
あまり力を入れる必要はない	6	7	116	41
力を入れる必要はない	4	6	15	5
分からない	42	26	76	83
無回答	13	17	21	23
計	582	582	582	582

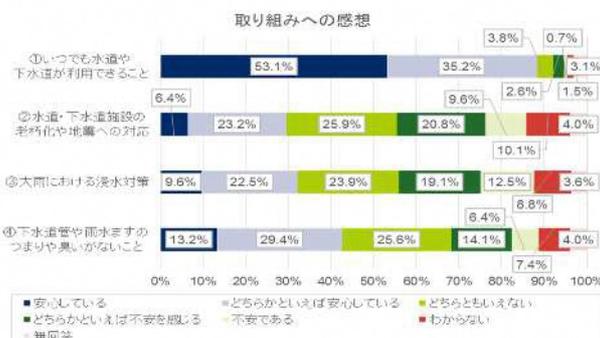
  

選択肢	平成 29 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度
特に力を入れる必要がある	29.2%	35.9%	6.4%	17.9%
力を入れる必要がある	59.6%	54.5%	54.5%	56.0%
あまり力を入れる必要はない	1.0%	1.2%	19.9%	7.0%
力を入れる必要はない	0.7%	1.0%	2.6%	0.9%
分からない	7.2%	4.5%	13.1%	14.3%
無回答	2.2%	2.9%	3.6%	4.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「いつでも水道や下水道が利用できること」について安心しているという回答（「安心している」「どちらかといえば安心している」）の割合が他の項目よりも高くなっています。

### 【平成 29 年度調査】

問 8-1. 皆様に安心して快適な生活をしていただくための取り組みについてご感想をお聞かせください。（n=582）



### 【平成 15 年度調査】

設問なし

選択肢	平成 29 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度
安心している	309	37	56	77
どちらかといえば安心している	205	135	131	171
どちらかといえば不安を感じる	22	151	139	149
不安である	15	121	111	82
わからない	4	56	73	37
無回答	9	59	51	43
計	18	23	21	23
計	582	582	582	582

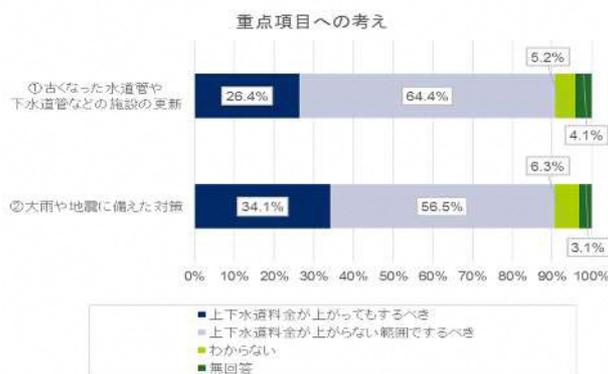
選択肢	平成 29 年度	平成 15 年度	平成 15 年度	平成 15 年度
安心している	53.1%	6.4%	9.6%	13.2%
どちらかといえば安心している	35.2%	23.2%	22.5%	29.4%
どちらかといえば不安を感じる	3.8%	20.8%	23.9%	14.1%
不安である	2.6%	19.1%	12.5%	6.4%
わからない	0.7%	10.1%	8.8%	7.4%
無回答	3.1%	4.0%	3.6%	4.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「上下水道料金が上がらない範囲でするべき」の割合がともに高くなって  
ります。

「大雨や地震に備えた対策」の方が「上下水道料金が上がってもするべ  
き」の割合が高くなっています。

### 【平成 29 年度調査】

問 8-3.問 8-2 において、質問項目 及び で、「特に力を入  
れる必要がある」または「力を入れる必要がある」とお  
答えになった方について、あなたのお考えをお答えくださ  
い。(n=542)



### 【平成 15 年度調査】

設問なし

選択肢		
上下水道料金が上がってもするべき	143	185
上下水道料金が上がらない範囲でするべき	349	306
わからない	28	34
無回答	22	17
計	542	542

選択肢		
上下水道料金が上がってもするべき	26.4%	34.1%
上下水道料金が上がらない範囲でするべき	64.4%	56.5%
わからない	5.2%	6.3%
無回答	4.1%	3.1%
計	100.0%	100.0%



〒617-8501 長岡京市開田一丁目 1 - 1

長岡京市上下水道部

TEL(075)955-9538 FAX(075)951-2200